篠井の金堀唄

曇るガンガラ　宝の山よ
里に黄金が流れ出る　ハア、チンチン

黄金が流れ出る里と歌われた篠井地区。篠井では昔から金の採掘が行われ、採掘の作業に合わせて唄が歌われました。この労働歌が金堀唄です。

篠井の金堀唄は、明治・大正と時代を経るごとに詩、節ともに変化して今日に伝わっています。七七調、七五調のリズムで、このリズムが作業をやりやすくし、人々の結束を高めたことでしょう。

篠井金山は、榛名山（通称ガンガラ山）、本山、男山の山裾を中心に開発された金山です。

ガンガラとは、岩石が幾重にも重なった険しい山という意味です。開発は室町時代からといわれ、戦国時代の１５９８年には宇都宮領内の黄金１８枚が豊臣秀吉に献上されたという記録が残っています。最盛期は、江戸時代の寛文年間（１６６１～７２）頃といわれています。開発には、水戸の佐竹氏があたりました。明治に入っても開発は続けられますが、採掘は思うように進まず、現在に至るまで採掘は途絶えています。

篠井の金堀唄がアレンジされた草刈唄は、金山がすたれ坑夫たちがいなくなった篠井の地で、若い農民たちによって歌われるようになった民謡です。農作業の合間にうたわれた草刈唄が、篠井の地では明治以降広く定着していったようです。

戦後になり、金堀唄の消滅の危機をおそれた

地元の人たちにより、金堀唄の保存の動きが出てきます。昭和３５年、篠井公民館館長の手塚雅男さんが中心となって「篠井の金堀唄保存会」が設立されました。保存活動と研究が続けられますが、一時期は二人の年寄りだけしか金堀唄を歌えないという状況に陥ったこともあったようです。

それでも保存会は地道に活動をつづけ、現在は５人の会員が、イベントなどで活発に金堀唄・草刈唄を披露しており、特に子どもたちへの普及に努めています。

現在、金山の坑道はほぼすべてが埋め立てられ、かつての栄華をしのばせるものは残されていませんが、篠井金山の歴史を歌う金堀唄そして草刈唄を絶やしてはならぬと、保存会の人たちの唄声は響きます。

《篠井の金堀唄》

一、ハッパかければ　切羽が延びる
　延びる切羽が金となる
一、曇るがんがら　宝の山よ
　里に黄金が流れでる
一、ひびく槌音　女房がきけば
　黄金集めて背負い出す
一、右に槌持ち　左に手金
　一ツ打ったび火花散る
一、佐竹奉行は　おれらの主よ
　恵厚きで精が出る
一、夫婦揃うて　黄金を掘れば
　いつかわがやに煙立つ

《篠井の草刈唄》

一、わしと行かぬか　朝草刈りによ
　草のない山七めぐり
一、いくらかよても　青葉の山よ
　色のつく木はさらにない
一、朝の出がけに　どの山見ても
　霧のかからぬ山はない
一、馬の背にのり　朝草刈りによ
　唄で山路を越えて行く
一、いきな小唄で　草刈る主のよ
　お顔見たさにまわり通
一、草刈り負けたら　七ぼらハぼら
　それで負けたら鎌を研げ
一、篠井山なか　三軒屋でも
　住めば都で花が咲く
一、嫁に行きたや　篠井の里によ
　夫婦そろうて共がせぎ
一、娘十八　篠井の育ち
　腕におぼいの手打ちそば
一、お前百まで　わしゃ九十九まで
　共に白髪のはえるまで

《 宇都宮鳶木遣りが披露される主なイベント 》

■宇都宮市消防出初式　開催日：１月６日ごろ
場　所：宇都宮城址公園、
二荒山神社前（バンバ通り・大通り）

■ふるさと宮まつり　開催日：８月第一土曜日、日曜日
場　所：大通りほか

《 篠井の金堀唄、草刈唄が披露される主なイベント 》

■ふるさと宮まつり　開催日：８月第一土曜日、日曜日
場　所：大通りほか

■篠井の秋まつり・文化祭　開催日：１１月３日
場　所：篠井地区市民センター

平成27年度宇都宮市伝統文化映像記録作成事業

企画・製作：宇都宮市教育委員会
協　　力：宇都宮鳶木遣り保存会
篠井の金堀唄・草刈り唄保存会
助　　成：文化庁平成27年度文化遺産を活かした地域活性化事業
発 行 日：平成28年3月31日
著　　作：宇都宮市教育委員会

連 絡 先：宇都宮市教育委員会文化課
宇都宮市旭１丁目１番５号
TEL.028-632-2764
FAX.028-632-2765

文化庁